

今から十年以上前、女子高生の間で、「ヘブ  
ンズパスポート」という手帳が流行しました。  
百の善い行ないをすると、願いが叶うと  
いうのです。いわゆる「徳積み」が女子高生  
の間にゲーム感覚として広がったのです。

私たちは「童話」や「伝説」などの昔話で、  
善いことをすれば幸せになれると聞かされて  
きました。しかし大人になるにつれ、現実を  
見ると、なかなかそのことを実感できずにい  
ます。むしろ「善いことをしても幸せになれ  
ない」と思っている人もいます。

『万人幸福の栞』に、「世の中の幸福者は、こ  
のレールの上にきちんと乗っている」と記さ  
れています。純粹倫理とは、日常性にたとえ  
て言うならば「車の運転」のようなものです。

車で交差点を直進する際、左右確認をしな  
ければ事故に遭います。たとえ無事だったと  
しても、たまたま他の車が横から来なかつた  
だけで、そのような走行を続けていけば、い  
つか必ず事故に遭うでしょう。ルールを守ら  
ないことは、一見すると楽な近道のように  
思えますが、結局その行く末は非常に厳しい  
ものになります。

製造業を営むK氏は、事業が軌道に乗って  
いたため、将来は株式上場をして世界に羽ば  
たいていこうと考えていました。

K社長はある時、友人・知人に対して、「近々  
上場するが、うちに投資しないか」と囁きま  
した。本来このような行為は法律上禁じられ  
ていますが、K社長は資金欲しさから友人ら  
に金儲けができるを持ちかけたのです。

そして短期間のうちに二十数名から約十八

## 我情我欲を捨て 人世のために働く



絵・わたなべじゅんじ

億円を集めたものの、会社は半年後に倒産。  
負債総額が三百億円を超える事態に陥りまし  
た。間もなくK社長は姿を消し、儲け話に乗  
った友人・知人も、巨額の投資が要因となっ  
て倒産の憂き目に遭う結果となりました。

『万人幸福の栞』第九条「破約失福」には、  
「法網をくぐって出来た金銭・財産は、その  
人の身につかぬのみか、かえって、その人を  
家を不幸にする」とあります。法や道徳に反  
して事業を拡大させようとしても、結果とし  
て滅びの道につながるのです。

経営者として「魔がさした」ということは、  
自分の心を見失っている状態に他なりません。  
正しい心へと立ち返るためには、徳（善いこ  
と）で心を磨くことが肝要です。

住宅建設会社社長のT氏は、会社が順調な  
理由を「休日にゴミ拾いをしているからかも  
しれません」と言います。氏が幼い時によく  
聞かされた「お天道様が見ているよ」という  
言葉は、先人が経験的に培った生きる指針な  
のでしょう。大自然、ご先祖様、支えてくれ  
る家族に対して恥じない行動をすることが、  
真の企業繁栄の秘訣なのです。

倫理経営は、人や物、そして環境に恵まれ  
ていく経営です。我情我欲に惑わされること  
なく、世のため、人のために役立つ生き方を  
目指していきたいものです。

徳と福は必ず一致します。徳（善いこと）  
は福（幸福）と明確につながっているという  
信念を持ち、良心に恥じることはない経営を  
していきましょう。

お天道様はいつもあなたを見ています。